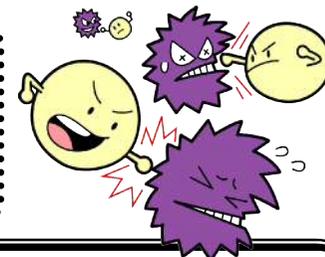


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



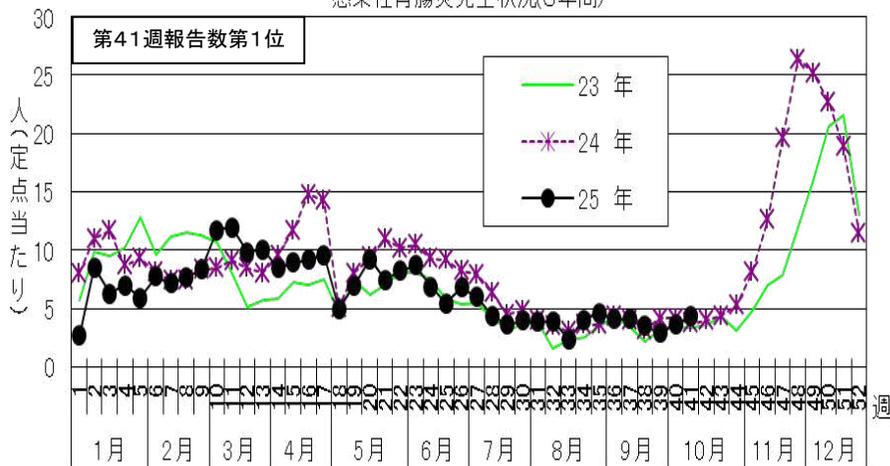
KAWASAKI CITY



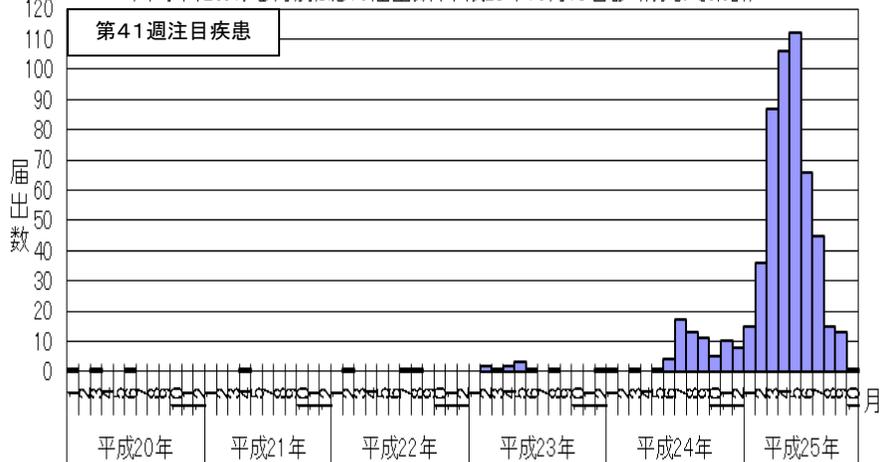
平成25年10月7日(月)～10月13日(日)〔平成25年第41週〕の感染症発生状況

第41週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 でした。感染性胃腸炎は定点当たり4.30人と前週(3.67)より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。手足口病は定点当たり1.70人と前週(1.12)より報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。腸管出血性大腸菌感染症(O157)の届出が10件ありました。引き続き発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



川崎市における月別風しん届出数(平成25年10月13日診断分まで集計)



冬に向けて注意しましょう！～感染性胃腸炎の流行～



感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などを原因として、下痢やおう吐などの症状がでる感染症です。秋から冬にかけて流行するもののほとんどはウイルスが原因であり、これからの時期はノロウイルスによるものが増えます。

感染を防ぐために…

手洗いが基本です。また、患者の便やおう吐物は乾燥して舞い上がらないように早めに片付け、必要に応じて家庭用塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)などで消毒してください。

かかってしまったら…

頻回の下痢やおう吐により、体内の水分を多く失いますので、水分補給はこまめに行いましょう。特に、乳幼児や高齢者は脱水をおこしやすいので注意しましょう。

感染性胃腸炎発生状況(平成25年)



上のグラフのとおり、例年12月を中心に患者報告数が増加します。これから冬季に向けて、予防対策を徹底する必要があります。

